福祉つるみ

第24号　平成8年2月1日発行

編集・発行　社会福祉法人
横浜市鶴見区社会福祉協議会
鶴見区福祉の風土づくり
推進委員会
鶴見区役所内
TEL.503-1212 内線304

印　刷　朝日オフセット印刷株式会社

題字：石田菊雄氏

本紙は自治会・町内会のご協力で全世帯に配布しています。

ホームヘルパーって何だろう？
～ホームヘルパー講演会、開催される～

鶴見区は横浜市内でも高齢者の割合が比較的高く、在宅介護サービスの中核となるホームヘルパーの確保が強く望まれています。昨年の11月29日、「ホームヘルパー講演会」が鶴見区役所で開かれ、ホームヘルパーに関心をよせる区民約180人が集まりました。

初めの講演会では、高橋五江淑徳大学助教授が「地域ケアとホームヘルパー」をテーマに講演されました。このあと、引き続き、ヘルパーの仕事を紹介するビデオやヘルパーさんの体験談の発表、㈶横浜市ホームヘルプ協会人材開発課長、山田洋さんからの説明もあり、参加者はメモを取りながら熱心に2時間を過ごしました。

ここでは、高橋先生のお話について要約してご紹介しましょう。

(1) 高齢化社会における地域ケアとホームヘルパー

本格的な高齢化社会の到来を迎え、高齢者福祉対策も老人ホームなどの施設中心の従来の政策から、心身に障害を持ったり、寝たきりになっても、住み慣れた地域で暮らし続けるための在宅福祉、地域福祉重視の政策への転換が求められています。

今後の高齢者福祉の大きな柱の一つがホームヘルパーの拡充です。介護が必要になってもこれまでどおりの明るく充実した生活を送るには、本人や親族以外の第3者の援助が不可欠です。それを担うマンパワーとして、ホームヘルパーの役割がより一層重要となるのです。それだけではなく、効果的なサービス提供のために保健・医療・福祉サービスが縦割りでなく、協力関係から連携へ、さらに統合（一体）対応が求められている今日、このネットワークの中でホームヘルパーはサービスチームの一員として重要な役割を担う専門職として位置付けられています。


講演する高橋先生

(2) ホームヘルパーの発展と新たな需要

昭和30年上田市で開始され、昭和38年老人福祉法により「家庭奉仕員」という名称で制度化されたホームヘルプサービスは、その後の法改正などにより、法律を含めた制度の整備が図られてきました。しかしながら、先に述べたような高齢化社会の到来にあって、新たな介護の需要への対応が求められています。

ホームヘルパーの仕事は家事援助、身体介護、相談助言の三つの業務があります。今までは掃除や買い物などの家事を中心にこなす「家事援助ヘルパー」が中心でしたが、70歳代後半以上の高齢者が増大することで、直接身体の介護を行う「介護ヘルパー」の需要が拡大しています。ここでは、介護の専門的知識のほかに、利用者の家庭に入り、プライバシーに深く関わるため、経験だけに頼らずに信頼関係を形成するために生活に関する科学を学ぶことなど、専門職としての態度形成が求められています。


たくさんの熱心な参加者が集まりました。

(3) ホームヘルパーの今後の課題

①ヘルパーの専門的資質向上

業務での研修や事例研究、ミーティングでの議論をとおして、ヘルパー同士が互いの意識を高め合うことが大切です。

②新たな介護需要に対する体制の整備

24時間体制で1日複数回訪問する巡回型サービスや、ヘルパー活動拠点を日常生活圏に配置し、訪問看護婦とチームを組んで相談しながら仕事ができるような体制の整備が望まれています。

～〝地域福祉の身近な相談役〟民生委員・児童委員の活動～

＊民生委員制度

民生委員・児童委員は、厚生大臣から委嘱され、さまざまな公的社会福祉事業の実施に協力するとともに、自主活動により地域福祉のリーダーとして活躍している民間の奉仕者です。

民生委員制度は大正6年に岡山県で創設され、その後昭和23年民生委員法の制定により正式な制度として発足しました。横浜市では大正9年4月に「横浜市方面委員規定」が制定され、民間篤志奉仕家として48人の方面委員を委嘱したことに端を発し、以来78年、本市の福祉行政の推進に大きな役割を果たしてきました。

＊在宅福祉の推進役

今日、社会福祉をめぐり多くの変化がおこっており、地域での福祉課題も多種多様になっています。特に高齢者の問題や少子化問題は、今後の社会福祉の動向に大きな影響を与えると考えられています。

このような状況の中、社会福祉にも新しい方向性が求められています。なかでも、「自分の住みなれた家庭や地域で継続した自立生活を送りたい」という誰もが持つ願いを地域ぐるみで協力し、支援していこうという在宅福祉や地域ケアが重要視されるようになっています。

この「地域福祉の時代」に民生委員・児童委員制度は、これまでも地域での援助活動を進め、わが国の社会福祉の向上に大きく貢献してきましたが、今後は在宅福祉の推進役としてより一層の活躍が期待されています。

＊民生委員・児童委員の仕事

では民生委員・児童委員の主な仕事、活動の内容についてご紹介しましょう。

㈠　まず、「地域の世話役」として相談や援助活動を行い、家庭や生活上の悩みなどの相談にのり、問題解決にむけ支援していきます。民生委員・児童委員は法律に守秘義務があります。相談を受ける方々のプライバシーを他に漏らすことはありません。

㈡　だれもが地域で安心して暮らせるよう、在宅福祉の推進者として、「地域と行政のパイプ役」、「地域における社会福祉のアンテナ」として活動しています。

①ひとりぐらしの高齢者、寝たきり高齢者の介護者、母子家庭などへ見舞金や激励金をお届けし、支援、激励しています。

②行政機関などが証明する以外の依頼者が必要とする証明について、依頼事項の事実確認のための調査を行い、証明書を発行します。


平成7年12月1日付で281名の民生委員・児童委員が委嘱されました。

③行政や社会福祉協議会などが行う、いろいろな福祉サービスなどの情報や、活用方法などを紹介、提供します。

④生活保護、障害者福祉、母子福祉などについて情報を提供するとともに、行政と連携しながらさまざまな対象者を支援しています。

これは民生委員・児童委員の活動のほんの一例です。街の身近な相談役として皆さんの身近な相談役として気軽に民生委員・児童委員さんに声をかけて下さい。

＊民生委員・児童委員の一斉改選

民生委員・児童委員は、3年ごとに一斉改選が行われますが、鶴見区では昨年の11月30日鶴見公会堂で、この一斉改選に伴う厚生大臣の委嘱状（平成7年12月1日付）の伝達式が行われました。これにより、鶴見区では民生委員・児童委員が11人増員され281人、主任児童委員が19人の総勢300人となり、市内では港北区についでの大所帯となっています。また民生委員・児童委員の男女別では、男性135人、女性146人となり初めて女性が男性を上回りました。

民生委員についてのお問い合わせは、各地区の民生委員・児童委員総務さん、もしくは鶴見区役所の中にある鶴見区民生委員・児童委員協議会にお問い合わせください。

☎503－1212（内線307）

承認鶴見区第40号

民生委員・児童委員　総務名簿

地区名	氏　名	電　話	住　所
矢　向	鈴木辰三郎	581－7579	矢向5-6-24
市　場	横溝　晃信	521－4058	菅沢町15-24
市場第二	柴田　和昭	574－0347	元宮1-8-31
鶴見中央	山田　敏雄	501－2550	鶴見中央2-8-4
潮田中央	宍田　信夫	502－7704	向井町1-64-4
潮田東部	川上　隆	501－4507	浜町1-5-3
潮見橋	椎橋　陸男	521－0693	本町通2-58
潮田西部	仲本　茂次	521－7880	汐入町2-40-1
小野町	佐藤　信男	501－8762	小野町25
生麦第一	橋本　栄	501－8106	生麦4-25-17
生麦第二	牛頭　春雄	571－0183	岸谷3-4-27
豊　岡	磯ケ谷達夫	581－5330	佃野町29-35
寺　尾	昼間松之助	571－6181	北寺尾6-32-30
寺尾第二	横井　久運	581－9320	上の宮2-24-3
駒　岡	稲葉　晴三	572－1971	駒岡4-22-21
上末吉	斉藤　龍雄	581－7319	上末吉1-13-18
下末吉	不動田建三	581－0226	下末吉2-21-15

福祉は職場から地域から

～年末福祉餅つき大会～

平成7年も年の瀬の12月20日、鶴見勤労青少年会館で年末福祉餅つき大会が横浜地域連合・横浜東部地区連合の主催で開催されました。6年目を迎えたこの年末福祉餅つき大会も年々盛り上がりを見せ、今年も鶴見区内の心身に障害を持つ方々と家族の方、介護者などを含め341名という多くの方が参加しました。

横浜東部地区連合は、市内でも事業所の規模・数ともに多い鶴見区と神奈川区の労働組合が集まって平成7年12月14日に発足した組織です。事務局長の山田益夫さんも「これからは労働運動も、自分自身の労働条件だけでなく、地域との関係を大切にして、社会全体の福祉向上に貢献することを考えていくべきではないでしょうか。」と述べられていました。

第1回の年末福祉餅つき大会から協力している「みどりの会」は共同で区内の農家に低農薬野菜の栽培をお願いして共同購入している団体です。代表の新田弘子さんも「農地を守るのも福祉活動に協力するのも同じ社会貢献ですから。」とおっしゃいます。

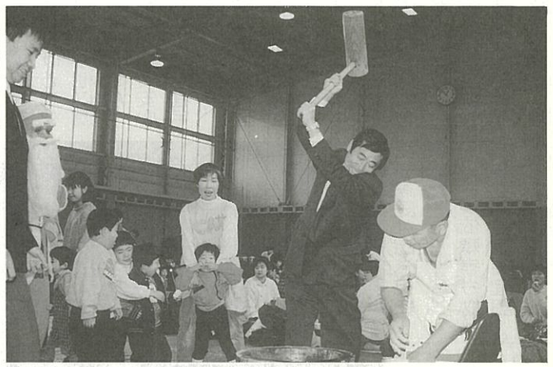
この日は、みぞれもちらつく寒い朝となりましたが、朝早くからボランティアや区内の事業所で働く人々が多く集まり、大根おろし用の大根洗い、もち米の仕込みなどの作業に汗を流していました。

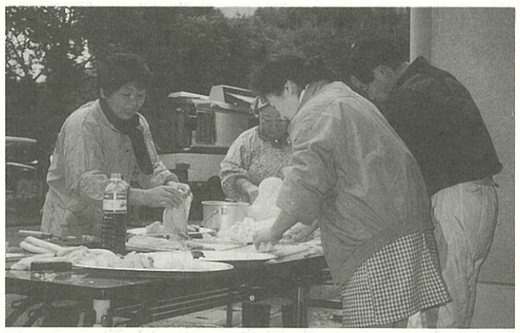
昼前に開場して家族連れの参加者の皆さんが会場に入ると、つきたての暖かいお餅を囲みながらの会食会が始まりました。鶴見区のマスコット、ワっくん・ワっこちゃんも登場し、楽しい2時間があっという間に過ぎていきました。

「楽しい雰囲気が好評なのか、参加者が毎年増えています。今年は昨年の1.5倍の参加希望があったんですよ。」と鶴見区障害児者団体連合会代表の小笠原愛子さんも嬉しそうにお話ししていました。

最後に参加者の皆さんに「みどりの会」からは鶴見区内でとれた有機農法による大根、全森永労働組合鶴見支部からはお菓子の詰め合わせがおみやげとして手渡され、年末の素敵なプレゼントとなりました。

いろいろな団体が、それぞれの特性を生かして社会貢献を行う、そんな活動が鶴見にも着実に根付きつつあるのではないでしょうか。





もち米などを仕込み中のボランティアさん

男だって福祉ボランティア！

～「ダックワープロ教室」を支援する「サークル鶴の恩返し」～

人生の途中で、事故や病気により身体が不自由になった方々を手助けするため地域で行われている活動があります。潮田地域ケアプラザを中心に木曜と土曜の週2回開かれている「ダックワープロ教室」もそんな活動のひとつです。これは平成7年に区役所で開催された中途障害者のための『おしゃべりワープロ教室』で仲間になった人たちが、さらに継続・展開しようということで自主的に開催している講座で、中途障害者の方々にリハビリテーションを兼ねてワープロの操作を覚えてもらおうという教室です。



ダックワープロ教室

2年前、脳梗塞で左半身が不自由になったという63歳の男性の受講生が「来年は『先生』をやってくれっていわれているんですが、来年3月までにそのレベルまでいけますかどうか。」と楽しそうに語る姿に、このワープロ教室が着実に成果を上げていることを実感しました。

この教室をサポートしているのが福祉ボランティア団体「サークル鶴の恩返し」の皆さんです。「鶴の恩返し」は「なぜボランティアには女性に比べて男性が少ないのだろう?」という疑問を抱いた男性4人で7年1月スタートしました。現在の登録メンバーは40人で、配食サービスの配達・送迎サービスなどをやっています。この「ダックワープロ教室」では、受講生の送迎サービスや、教材のワープロの確保のために主旨を理解していただいたOA機器販売店と交渉を行うなど、運営面でのサポートを行っています。

「将来は鶴見で初めての送迎システムを作りたいですね。」と今後の展望を語る事務局の重岡昭男さんはこう呼び掛けています。

「『サークル鶴の恩返し』では会員を募集しています。車を運転できる人、ワープロの指導ができる人、その他特殊技能のある人もない人も、ゆとりの時間を少しわけてください。また、中古のワープロ（機種は東芝ルポ）の寄贈についてもご協力を!」

連絡先：「鶴の恩返し」事務局
重岡昭男さん
☎501－6288



おしゃべりワープロ教室

「うしおダック」は，潮田地域ケアプラザのマスコットです。可愛いがってね。



サルビア

昨年は新春早々から阪神・淡路大震災、オウム事件、いじめ問題と様々な事件に明け暮れた辛い一年でした。街には物が溢れ、お金さえあれば何でも手に入る時代、しかし欲望は際限なく、心が満たされることはありません。その心の隙間を埋めようと今、いろいろな問題を引き起こしているのかもしれません。

互いを思いやる心、福祉の心は幼い頃から育んでいくことが必要、それには我々大人がお手本を示していかねばと痛感します。

（米山）